

所報

題字: 武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第152号 令和2年3月5日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 TEL 381-1058

(主な内容)

- ・第2回小学校外国語教育指導連絡協議会
- ・令和元年度江別市教育研究所事業報告

第2回小学校外国語教育指導連絡協議会開催される

1月30日(木)に、今年度2回目の小学校外国語教育指導連絡協議会を開催し、今年度の取組の反省と次年度に向けての課題について協議しました。

各小学校の取組状況の交流では、①ALTとの打合せ時間確保の工夫、②「ふり返りシート」の活用、③担任単独の授業実践などについて、次年度に向けての課題の交流では、①評価の在り方、②教材の整備、③授業の質をどう高めるかなどについて多く報告されました。

外国語活動巡回指導教員の黒田先生からは、今年度の各小学校の取組の成果として、

- ①児童一人一人に目を向けた授業づくり (評価への活用)
 - ・発音練習(一斉・班ごと・一列ごと・一人ずつなど)
 - ・対話練習(級友・担任・ALTと、指名し全体の場で披露するなど)
- ②ペア活動やグループ活動
 - ・児童が互いに教え合う姿(これからの教育に求められること)
 - ・ペア練習やグループ練習の時間(全体観察や個別観察、支援の時間、評価への活用)
 - ・一斉練習+ペア練習+グループ練習など(新しい言葉や表現の定着)
- ③評価を意識した授業づくり
 - ・発表活動(目的に合った活動ができているかの行動観察、評価への活用)
 - ・「ふり返りシート」を使った自己評価
 - ……気付いた点や改善したい点などの記述→「思考・判断・表現」の見取り
 - ……どんな表現に気付いたかなどの問い →「知識」の見取り
- ④担任主導の授業実践
 - ・ALTとのTTにおける担任の主体的関わり
 - ……児童の実態に合わせ、臨機応変「練習を増やす・ゆっくり進める・内容を易しくする」などALTと相談しながら進められた。
 - ALTと打合せを持つことで、担任が指導教材や活動内容、指導ポイントを理解し、ALTとの役割分担がしやすくなって良い授業につながった。
 - ・担任のみの授業実践
 - ……ALTとのTT授業と同じような流れで授業が進められる。(児童の安心感)
 - 外国語授業の進め方をつかみ、慣れる。
 - 学校全体での授業づくり(授業の流れづくり)を進める。
- ⑤教材教具の整備
 - ・デジタル教材の学校サーバー、担任用パソコンへのインストール

などの説明がありました。この4月から、3・4年の外国語活動35時間のうち10時間、5・6年の外国語科70時間のうち30時間は、ALT不在の形で学級担任等が単独で授業を行うこととなりますので、上記の取組を確実に進めていくことが大切です。

最後に、江別第二小学校の黒田浩美先生の江別市小学校外国語活動巡回指導教員としての任期もこの3月で終了いたします。黒田先生はこの2年間、江別市小学校教職員の外国語指導力向上のために市内小学校16校を巡回し、授業の進め方やALTとの連携の在り方などを指導してきました。その多大な貢献に対しまして心より感謝申し上げます。

令和元年度 江別市教育研究所事業報告

江別市教育研究所は、教育の理論と実践について専門的研究を行うとともに、一層の教育の進展と充実に図るために、調査や資料の収集整理、教職員研修、関係機関との連携などに取り組んできました。本年度の主な取組を終えましたので、令和元年度の江別市教育研究所事業報告をいたします。

1. 所員会議について

(1) 構成

所長 萬 直樹 (教育部長)
副所長 谷口 圭吾 (学校教育支援室長)
副所長 松井 卓 (上江別小学校長)
所員 重山 麻人 (豊幌小教頭)
中村 玲太 (豊幌小教諭)
龍本 英紀 (江別第一中教諭)
遠藤 絵里 (江別第二中教諭)
田邊 律子 (中央中教諭)
事務局長 島田 茂 (江別市教育研究所)
事務局次長 末金 拓真 (学校教育係)

(2) 会議

第1回：年間事業計画、所員の業務、夏期セミナーの内容
第2回：夏期セミナーの役割分担、意識調査の項目検討
第3回：夏期セミナーの反省、意識調査の集計の分担
第4回：意識調査の分析の分担
第5回：意識調査の考察の検討
第6回：今年度の事業反省、「調査研究報告書No.35」の製本作業

2. 教職員夏期セミナーについて

「今日的教育課題」や「特別支援教育」「アイヌ民族の歴史と文化」「タグラグビー」「ビブリオバトル」「情報モラル教育」「プログラミング教育」「フィールドワーク市内巡り」の8講座を実施し、約470名が参加しました。内容面の評価では、全体として「大変良い」「良い」を合わせた割合は93.9%でした。

3. 調査研究報告書No.35について

「意識調査」に基づく調査研究報告は、昭和60年から毎年行っています。今年度の研究テーマを「非認知能力を中心とした児童・生徒の意識調査」とし、抽出された8校の児童生徒の調査結果を集計し分析・考察を加えました。

4. その他の研修会について

(1) プログラミング教育に関する研修会

小学校教職員15校19名の参加を得て、12月9日(月)に東野幌小学校コンピュータ室で、プログラミング教育に関する研修会を実施しました。北海道情報大学の安田光孝・向田茂両教授と杉澤愛美講師がアンプラグドや5年正多角形作図、6年電気の活用などについて講義・演習をしました。

5. 小学校外国語教育指導連絡協議会の運営

第1回：年間活動計画、実態交流、研修
第2回：活動の反省、課題交流
研 修：第一中・大麻東中の英語授業参観
文京台小の外国語授業参観・交流

6. 体力向上実践事業

(1)今年度も北翔大学と文京台小が連携し「朝運動プログラム」の開発を進めました。

(2)「朝運動プログラム」普及出前授業は、北翔大学の協力を得て、大麻西小・第二小・中央小・上江別小・野幌若葉小の5校が実施し、子どもたちは走・跳・投などを盛り込んだ豊富な運動量のメニューを体験しました。

(3)北翔大学と近隣の中学校の協力を得て、平成27年度から小学校高学年を対象に「走り方教室」を開催しており、今年度も12校で実施し、速く走るポイントや練習方法などを学びました。

7. 道研連研究大会空知大会への参加

当研究所は、北海道教育研究所連盟に加盟しています。8月29日・30日に滝川市で開催され、事務局長が参加しました。

8. 所報の発行

本号を含め、8回発行し、広報活動に努めました。